

ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

暖かい風に乗れ、桜吹雪が舞っている。木立を見上げ満開の桜を愛でるのも良い。そして、風とともに散りゆく様を、風の温もりに包まれて感じるのも良い。さらに、芝生と水面に敷き詰められた桜絨毯を目にするのも良い。やがて際立つ新緑を待つ頃である。

この季節の風に勢いがある。自由奔放に吹き抜ける。地上に新しいいのちを目覚めさせる力を秘めている。やがて、この風に応えて草花が伸びる。そこから、果実が小枝に結び始める。来る実りの季節を待つ楽しみが風とともにおとずれている。

風はその思いのまま、とある。どなたかが風となり、まことに自由なご意志で吹く。思いのままだから、春風とは異質なものである。吹かれるまま吹く風ではなく、思いのまま吹く風である。

自由に吹き、何が起こるのか。人が新しくなる、新しく生まれる。この風を御霊と語る。風は目に留めることはできない。しかし、ことを起こす。その事から目を留める。新しい人の誕生を。

2023年4月7日